

総合教育センターだより

127号 令和元年9月発行 山梨県総合教育センター

「夏期研修会を終えて～令和時代の教育のために～」

7月24日（水）から8月21日（水）まで16日間「夏期研修会」を開催しました。7月の日照不足から一転し、「夏期研修会」開催と同時に猛暑日続きとなる中、**研修会数135本**、**参加人数延べ6,073人**と県内各地から多数の先生方にご参加いただきました。大変ありがとうございました。先生方の高い志とご理解・ご協力のおかげで、今年度も充実した研修会が実施できたことに、厚くお礼申し上げます。「夏期研修会」が明日からの実践に役立てば幸いです。

今年度は新しい取組として、平成24年度以降の研修受講履歴を総合教育センターホームページからダウンロードできるようになりました。また、「やまなし学び続ける教師のためのポートフォリオ」の利用を始め、研修会ごとにポートフォリオに記入することで、「教えるとはどういうことか」「教師としてどう成長したか、成長すべきか」等について、自分の考えをまとめ、振り返りやすくしました。ぜひお使いいただき、教師としての学びにご活用ください。

代表的な声をご紹介します

「やまなし学び続ける教師のためのポートフォリオ」を記入して、教員としての経歴を俯瞰できた。研修履歴を入れてみると、学習指導への偏りがあることが分かり、学校でリーダー的立場になるにつれて必要となる研修を自分から受けていなくてはならないと実感した。

はじめの問「教えるとはどういうことか」について、研修前は「子供たちに社会に出て自分の力で生きていける力を身に付けること」と記述した。研修後には「子供たちがよりよく生きる社会を創るための支援をすること」と変化した。研修を受けて、よりグローバルな視点から教育について考えるようになったこと、カリキュラム・マネジメントの意義を知ること、学校教育活動全体からとらえようとする視点が増えたと感じている。

「生きる力」の捉え方の解釈は広いと思うが、「教える」-「生きる力を総合的に育むこと」だと思った。

「教える」とは「未来への投資」という考えが加わった。

実際にポートフォリオに記入したり生きる力について記述したりする時間も取っていただき、ありがたかった。記入したり記述したりすることは考えを整理しやすいので大切だと思う。

「令和元年度初任者研修会」

今年度は218名の初任者が校内外での研修に励んでいます。研修会で初任者と顔を合わせるたびに、悩みや不安を抱えつつも教師として自信がついてきていることを感じます。「**すべては、子供たちの未来のために！**」学び続けましょう！



センターでの全体研修



生徒指導の意義と進め方



教科指導法（工業科）



宿泊研修



宿泊研修（野外炊事）



教科指導法（算数科）

新教頭研修会（2日目）

本年度より各学校の教頭となった先生方を集めての研修会が8月19日に実施されました。2回目のこの日は、①管理職として所属職員と自身のためのメンタルヘルスマネジメント研修、②県の教育委員との情報交換会、③SWOT分析を用いたの所属校の分析と戦略マップ作りを行いました。午前中の3時間に行われた密度の濃い研修会となり、教頭先生方も充実したひと時を過ごされたようです。

<受講者アンケートより>

OSWOT分析を行ったことで自校の課題点が明確になり、具体的な取組を意識できるようになりました。グループ討議で他校の状況など参考になるものが多かったです。2学期からの取組が具体的になりました。

○教育委員さんとの話し合いの時間もありがたかったです。こちらが考えていることに対して、真摯に答えてくださいました。（県の取組の様子も伝えていただきました。）

○教育委員さんが身を乗り出すようにして、私たちの話を聴いてくれたことに感激した。



小 主体的・対話的に学ぶプログラミング教育基礎研修会／プログラミング教育実践研修会

小学校の先生方を対象に来年度から新学習指導要領で必修となるプログラミング教育について、台形型のミーティングテーブルとインタラクティブプロジェクターが整備された研修室を使用し、より対話しやすい環境の中、協働的な活動を通し、プログラミングの楽しさを体験しながら学ぶことを目標に研修会を実施しました。今年度より新たに基礎研修会を2回、実践研修会を1回と計3回のプログラミング教育に関する研修会を開催しました。

内容は、PCで『Scratch』、iPadで『mBlock Bloclly』などのソフトを使って画面上で動きを実現させたり、5年生算数の正多角形を書かせるプログラム作りをしたり、『mBot』のセンサーや機能を使って動きを制御したり、光や音を出したりするプログラム作りを行いました。

受講された先生方から、「とても楽しかった。プログラミングへの抵抗感がなくなった。帰ったら学校のみんなに伝えたい。二人で一緒に学べて、分からないことも相談できた。」といった感想をいただきました。今後もよりよい研修会となるよう、工夫していきたいと思えます。



小 言葉による見方・考え方を働かせた授業改善研修会

菊池英慈教科調査官を講師にお迎えし、「育成すべき資質・能力を明らかにした授業づくりの実際と学習評価の改善」と題してご講義いただきました。新学習指導要領の全面実施を間近に控えて、今、どのような授業改善が求められているのかを学びました。授業改善の4つのステップを学ぶ際、具体的な場面を示して解説していただきました。後半は授業実践例を視聴後、授業分析を行い、授業づくりについて確認していきました。参加された先生方からは、「新学習指導要領の内容に沿った評価の仕方、基準の設定の仕方を学んだので、校内研等で活用したい。」「日々の実践を通して国語が好きな児童が生まれるよう努力していきたい。」といった感想が寄せられました。



キャリア教育研修会

8月20日に筑波大学教授の藤田晃之先生を講師に招聘し、学校におけるキャリア教育の在り方について研修会を実施しました。草創期のキャリア教育から時代を経て、今の子供たちに必要な資質能力を育成するためには、教員がどのようにキャリア教育に取り組むべきかについて深い理解を得られる研修となりました。また、研修会の後半では、先生方の所属校のキャリア教育の全体計画や年間計画を見直すためのグループ討議も実施されました。

参加者からは、「大変分かりやすかった。今後のキャリア教育の方向性、我々の取り組むべき方向を示していただいた。」「内容は、初歩から応用までを網羅し、今後の方向性ややるべき事を学ぶことができた。」という感想をいただきました。



自治的集団を育む学級づくり研修会

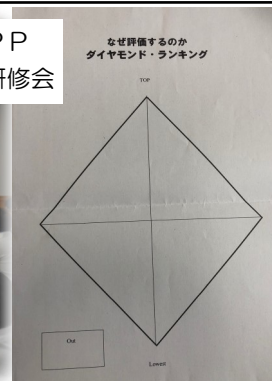


アドラー心理学を活かした学級経営の第一人者である赤坂真二先生（上越教育大学教職大学院教授）をお招きし、自治的な学級づくりを学ぶ研修会が今年も開催されました。講義だけではなく、ペアトークやグループワークなどを交えて行われた赤坂先生の巧みな講話は受講される先生方の大きな刺激となりました。先生方からは、「明日への活力がみなぎる研修会となりました。」「本研修を参考に、2学期以降クラス会議を实践したい。」などの感想が寄せられており、高い評価をいただきました。

中 社会科授業づくり研修会【基礎】



子どもと教師の成長を支える教育評価～OPPシートによる学習・指導と評価の一体化～研修会



研修会の様子

図工・美術表現活動研修会



理科実験工作研修会（県立科学館共催）



体験で学ぶ火山研修会（富士山科学研究所共催）



小特 体育実技指導力アップ研修会



「リーダー研修 教職としての素養を学ぶ①②研修会」

—児童生徒の人格の完成を目指す教育とは—

—使命感・責任感を持った教師の在り方を考える—

経験を積んだ先生方が、もう一度学校教育を問い直し、教員としての使命を再認識し、前向きに取り組んでいくことができるようにという目的で、「リーダー研修 教職としての素養を学ぶ研修会」を開催しました。講師に日本大学文理学部教育学科教授の広田照幸先生をお招きし、7月・8月の2回にわたり、延べ約180人の先生方が受講しました。

広田先生からは、「教育と学習は違う」「教育は教師の思い通りにはならない」「学校で教えることの意味」「教師はクリエイティブな仕事」「法規は何をどこまでできるかを理解するために読みこなす」「日本の教育は間違っていない」「なぜ学校は多忙なのか」「主体的・対話的で深い学びの困難」など、たくさんの心に響く言葉が聞かれました。

受講者からは、「久しぶりに教育基本法に触れ、教育の原点に戻ることができた。」「教育は思い通りにならないものだということを、講義の中で伺えたことで、気持ちが楽になった。」「教員側の立場に立って話を進めていただいたことで、腑に落ちる事が多くとても勉強になった。」「教員として何を考え、何を行っていく必要があるのかを少し理解できたように感じた。」「特に若い先生方に、目先のできた・できないにとらわれることなく『人間として必要とされる基本的な資質を身につけさせる』という目的を見失うことなく、目の前の子供に向き合ってほしいことを伝えていきたい。」といった感想が寄せられました。



お知らせ

特別研修会Ⅱ（兼 総合教育センター研究大会）

日時：令和2年2月20日（木）13：20～14：30

講師：山梨県立図書館館長 金田一秀穂 氏

演題：「言葉と教育」

金田一秀穂館長より講演に先立ちメッセージをいただきました。

「ことばは変化しますし、教育も変化しますが、次代の人々にのぞむことは、アリストテレス以来、ほとんど変わらずに、自分で考え、自分で判断し、自分で表現できる人間を育てることだろうと思います。

そのために今の大人たちは何ができるのか、様々な制約の中、時代を超えた普遍性を見つけることは難しいですが、やるしかないね、ということをお話したいと思います。」

一般留学生の声

一般留学生として研究を始めてから5か月が経ちました。「自分で表現しようとする児童の育成」を目指し、国語科での「言葉による見方・考え方」を働かせた授業実践に向けて取組を始めています。教育センターの先生方をはじめ、多くの先生方にご指導いただいています。その中で、最新の情報を知ることができたり、新たな視点を発見したり、教育センターで研究していなければ気付かなかったことや知らなかったことを学ぶことができ、充実した日々を送っています。現場に少しでも多く還元できるよう研究に励んでいきたいと思っています。

野呂瀬陽子（池田小）

私は小学校国語科「読むこと」の文学的文章において「考えを広げ深め形成する力を育てる指導の研究」をテーマに研究を進めています。テーマに迫るための手立てとして、三角ロジックを中心に研究を進めてきました。また、三角ロジックと合わせて、交流の仕方、ループロジック、その他の思考ツールについても勉強しています。一般留学生として、教育センターの先生方や研究協力員の先生方のご指導と、学校現場のご協力に感謝し、これからも努力していきたいと思ひます。

赤尾若菜（八代小）



YAMANASHI PREFECTURAL
EDUCATION CENTER

編集発行 山梨県総合教育センター
山梨県笛吹市御坂町成田1456
電話 055-262-5571
Fax 055-262-5572
発行責任者 所長 佐野 修
発行日 令和元年9月26日